市街地における使用目的を見据えた空き地取得の実行計画や企画があるのかどうかについて、次の3点について伺います。
①一般公営住宅について
②食事付き高齢者住宅（若者も含む）について
③スイーツ製造業者、販売等の誘致について

浜田町長

現在、駅前の再整備の検討を進めています。

町の活性化を図るためには、必要に応じて土地の先行取得は必要と認識しています。

とりわけコンパクトシティ計画の中で、空き地の活用を考えると、住宅については、切り離せない選択肢の一つです。

①一般公営住宅②食事付き高齢者住宅③スイーツ製造業者、販売等の誘致については、具体的な方向性を持ってお答えできる状態にはありませんが、この3点だけではなく、人口問題も含めて、「第8期総合計画」、「総合戦略」を進めていく中で、今後は、関係する機関や担当者と意見交換をしながら、具体性の高いものにしていきたいです。

？「コンパクトシティ」とは

住宅、店舗、病院など、生活に必要な機能を中心部に集めることで、徒歩で暮らせる街にすること。

問　「病児保育」で さらなる保育事業充実を！

答　子供たち・家庭・子育てのため 議論を深めたい

貴戸愛三議員

先般、議員協議会において、新得保育所の定員を100名に増員、屈足保育園は60名の定員となっている旨の説明があり、待機児童をつくらない取り組みと評価させていただいているところです。

現在、新得保育所で91名、屈足保育園で35名の児童保育を行っていますが、その中で保護者、また保護者が就労する事業所から、さらなる保育事業の充実を求める声がありました。

「病児保育」であります。

子育てのしやすい町、子育てをしながら、安心して働ける町を目指した町づくりをする中で、保育事業コストの問題はありますが、逆に公設保育でなければできない取り組みと考えます。

町長の考えをお伺いします。

浜田町長

病児保育の必要性については、担当課の中でも議論を深めているという前提で、答弁させていただきたいと思います。

病児保育につきましては、地域の児童を対象に発熱等の急な病気となった場合、病院・保育所等に併設された専用スペース、または専用施設において、看護師等が一時的に保育する事業となっています。

ご質問の病児保育の取り組みですが、実施については、体調に不安のある児童を預かる以上、万が一の急変に備えるため、医療機関との連携体制の必要性や、看護師、保育士の配置、職員の技術レベルの維持、保育施設の確保、運営経費など、多くの課題がありますが、子供たちのため、家庭のため、子育てのためという観点から、調査検討を進め、一層議論を深めていきたいと考えています。

なお、病気の回復期において、集団保育が困難な時期に、病院・診療所・保育所等に併設された専用のスペース、または専用施設で行う「病後保育」につきましては、本町において、平成25年8月より、子育てしやすい環境整備のため、「ファミリーサポート事業」として、実施していますが、現在まで利用実績が、一件もない状態です。